

## フキ (ハウス・露地)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型 (露地)	(根株養成)											
	—————					----- ×～×						
	—————					----- ◎～◎						
作型 (ハウス)	(根株養成)											
	—————			----- ×～×						—————		
	—————			----- ◎～◎						—————		

フキ キク科、原産地：日本

作物名 フキ

学名 *Petasites japonicus* Fr. Schmidt

作型 フキ

### (2) 土壌条件

地下茎は地表5～10cmの位置に横に這い、芽群は30cm程度に分布する稿根群と、1cm以上の深さに達する数本の太根に区別される。太根は過湿に弱い。多肥・湿潤状態が高品質・多収であるが、実際の吸肥力は小さい。

## 技術体系

### 1 作型の特徴

**ハウス栽培** 8月下旬～9月上旬に根株を植え付け、12月にビニル被覆する栽培と、6月下旬に根株を掘りあげて冷蔵(2～5℃、60～70日間)し、9月上～中旬に植え付け、1月にビニル被覆し、秋と春に収穫する冷蔵栽培がある。

**露地栽培** 栽培の基本型で、畑における粗放的永年栽培と、水田裏作又は転換作物としての集約的単年栽培がある。全期間を露地状態で栽培するものと、1月からワラ囲いや寒冷紗被覆をする栽培もある。

### 2 栽培条件

#### (1) 温度

耐寒性が強く、地下茎は寒地でも容易に越冬し、12月頃休眠が破れ、早春に芽萌芽して生育を開始する。夏期は高温で一時的に成長を停止し、秋に再び成長し、隆霜により地上部は圧枯死する。

## 栽培技術

### 1 品種

「愛知早生フキ」

春の萌芽が早く、草丈1m程度、葉柄は太く淡緑色～紫紅色で、肉質はやや硬く、苦味も強い。乾燥に弱い。

「水フキ」

萌芽が遅く、草丈1m以内で、葉身は中型、葉柄は淡緑色で、肉質良好、苦味も少ない。缶詰用に好まれる。

「秋田フキ」

萌芽が遅く、葉柄は長大で、縦の筋が強く凹凸が出る。毛茸が長く密生し、葉身は大型で葉肉も厚い。加工用に用いる。

### 2 根株の確保

健全で充実した根株を用いる。10a当たり700～1,000kgの根株が必要である。栽培継続の場合は、10a当たり3a分の根株を掘上げて利用する。この根株床は夏期も適湿を保つことが重要である。

### 3 施肥

施肥量			(kg/10a)		
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	備考	
基肥	各	6	~	15	植え付け2週間前、 前作により加減。 10~3月分施
追肥	各	10	~	15	
合計	各	16	~	30	

### 4 植え付け

根株を掘りあげ、土をおとして2~3節に切り調整する。根株は乾かないようにする。

### 5 植え付け後の管理

地温降下のため敷ワラを厚くし、十分に灌漑水する。灌漑は秋~冬は十分に行う。

### 6 収穫、出荷

地祭部から刈り取り、長さによって仕分けし、荷姿を整える。